

鹿児島の植物 67

マングローブの植物

植物担当 久保 紘史郎

メヒルギ（ヒルギ科）

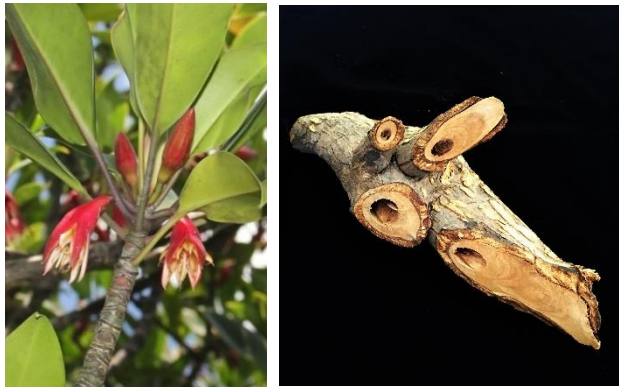
県本土のマングローブは、メヒルギだけで構成されています。種子は樹上で 20 cm ほどまで成長し、この様子が母体で胎児が育つようなので、胎生種子と呼ばれています。また、成長した胎生種子が琉球のかんざしに似ていることからリュウキュウコウガイ（コウガイとは、かんざしのこと）ともよばれています。不安定な干潟でもしっかりと体を支えられるように板状に発達した根を持っています。



発達した板根と成長した胎生種子

オヒルギ（ヒルギ科）

メヒルギと比べると寒さに弱く、奄美大島より北には生育していません。夏に赤い花を咲かせることからアカバナヒルギの別名もあります。幹の周りには曲がった根が地面から出ており、これが膝の形に見えることから膝根と呼ばれています。地面に出ている部分で酸素を吸収して、レンコンのような穴のある根で全体に酸素を行きわたらせています。



夏に咲く花と内部に穴のある膝根

サガリバナ（サガリバナ科）

奄美大島以南に生育します。垂れ下がった花序に花が付くことから名前が付けられました。花は日が暮れると咲き始め、夜明け前には散ってしまいます。花弁は 4 枚で、多数の雄しべが特徴的です。花が美しいことから民家周辺等に植えられことも多いですが、本来はマングローブ周辺に自生する植物です。



夜に咲く花

サキシマスオウノキ（アオイ科）

奄美大島以南に生育しており、大きく発達する板根が特徴的です。種子はウルトラマンの頭のような殻に包まれています。この殻は非常に軽く水に浮かぶため、種子を海流に乗せて遠くへ運ぶことができます。



面白い形の種子

ハマボウ（アオイ科）

学名は *Hibiscus hamabo*（ハイビスカス ハマボウ）でハイビスカスの仲間です。7-8 月に黄色い花を咲かせます。南さつま市万之瀬川河口には 1000 株以上が群生しており、平成 19 年には「万之瀬川河口域のハマボウ群落及び干潟生物群集」として国の天然記念物に指定されています。この場所はシオマネキの国内有数の生息地で、クロツラヘラサギなど貴重な水鳥も観察できる場所です。



ハイビスカスに似ている花